

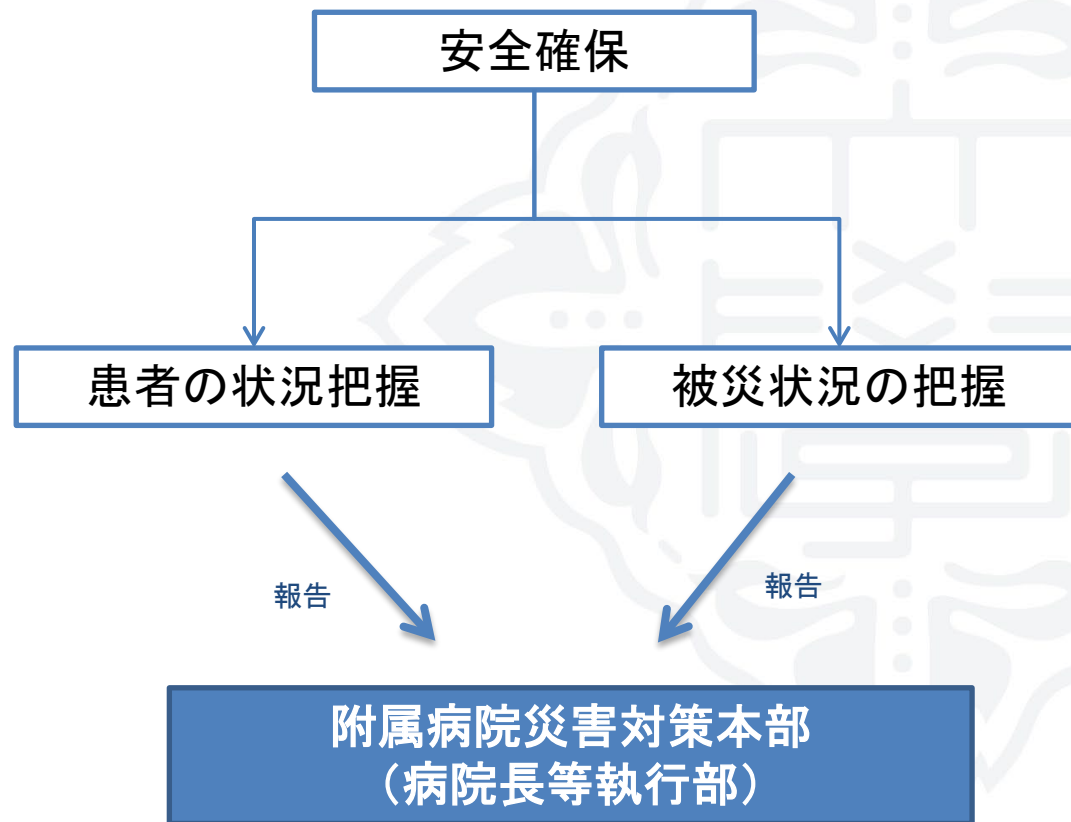


令和6年能登半島地震における 附属病院の医療支援・災害対応

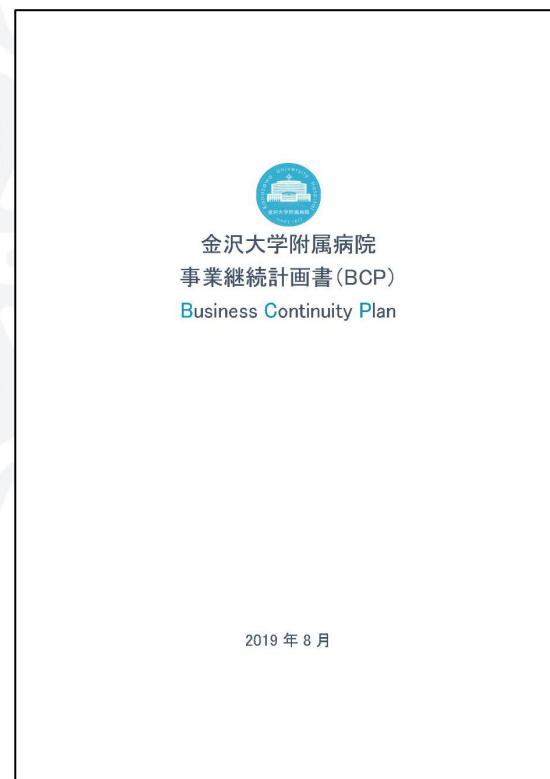
令和6年2月3日
金沢大学附属病院

初期対応（1）状況の把握

金沢大学附属病院 事業継続計画書（BCP）に基づき、
速やかに患者さんの状況把握及び被災状況の把握を行いました。



令和元年8月にBCPを策定
策定後も定期的に見直している
(令和6年1月最終改定)



BCPの表紙

□初期対応（2）活動方針の決定

本院では外壁の剥がれ等が見られたものの、医療機器・医療設備やライフライン（電気・上水・下水・ガス）に異常はなく診療を継続することができた。



【活動方針】

北陸地域の最後の砦として

高度医療の提供維持と能登地域への医療支援活動

を両立する

★職員派遣を決定

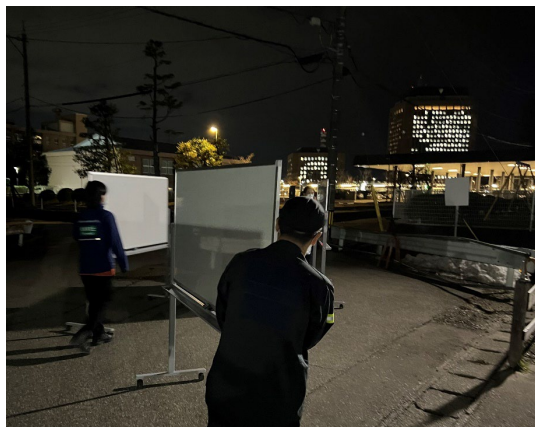
★関係者へメッセージを発信

- 教職員へメッセージを発信（byoin-allと呼ばれる病院勤務者向けメール送信システムでメールを送付）
- 一般に向けたメッセージを発信（附属病院Webサイトに掲載）
- 関連病院向けにメッセージを発信（関連病院へのメール送付 & 附属病院Webサイトに掲載）

医療支援（1）DMAT（災害派遣医療チーム）を市立輪島病院へ派遣

活動期間：1/1(月)～3(水)

① 石川県立中央病院に集合



石川県立中央病院へホワイトボードを運び入れ

② 市立輪島病院へ移動



DMATミーティングの様子

③ 輪島市で活動



輪島市内を走る車内からの様子

蛍光灯が落下しそうになるなかで、他県のDMAT隊とともにミーティングを行ったあと、車に乗り、家屋が潰れる街中を移動し活動を行いました。

⇒ 本院の教職員は、被災地での活動ではなく、本院での患者受け入れの活動に切り替えへ

医療支援（2）DMAT指揮所・活動拠点を附属病院内に設置

活動期間：1/4(木)～22(月)

患者さん受入れ前のミーティング



自衛隊による附属病院への搬送



能登の病院から患者さんを乗せた救急車が次々と



ドクターヘリでの搬送

令和元年5月にドクターヘリが離着陸できるヘリポートを整備

他県からのDMATの協力を得て、能登地域の病院等から搬送される患者さんの入院先調整を行いました。また、附属病院では重症患者さんを中心に受け入れました。

(珠洲市総合病院から透析患者11名、他の病院で受け入れできなかった骨折や脳血管障害の患者などを受け入れました。)

活動期間：1/19(金)～

医師、看護師、薬剤師、臨床検査技師、連絡員の多職種編成のもと、能登地域の避難所で、血栓症が疑われる方等への診察を行いました。

1/19(金)は、七尾市の3つの避難所(山王小学校、矢田郷コミュニティセンター、小丸山小学校)で診察を行いました。

避難所での一人ひとりのスペースは狭く、また避難所となっている小学校でも地面のコンクリートが割れたままとなっていました。



七尾市：小丸山小学校の様子

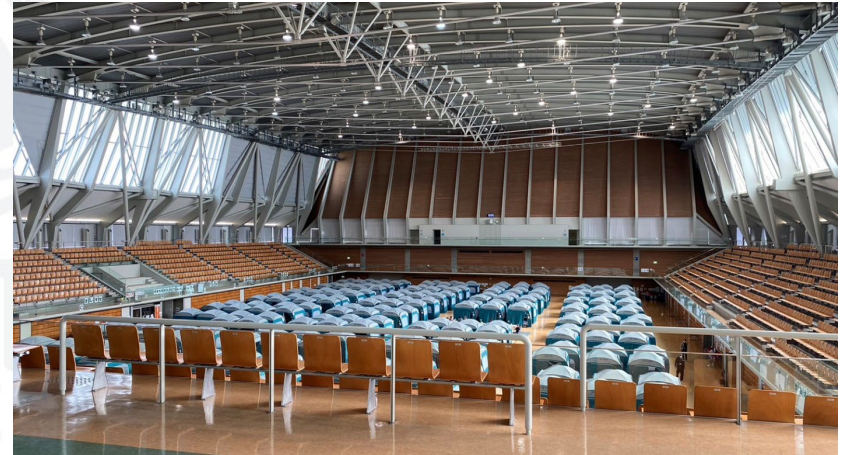
【参考】DMATとJMATの違い

	活動時期	管轄	研修・訓練
DMAT(災害派遣医療チーム)	超急性期 <～48時間程度>	都道府県／厚生労働省	必要あり
JMAT(日本医師会災害医療チーム)	急性期 <1週間～>	医師会	必要なし

活動期間：1/9(火)～

本院内科系医師による診療開始

- * 平日を担当
- * 土日は金沢市医師会会員が担当
- * 夜間はオンコール対応



○1月22日～

本院教員が初期研修医（独立行政法人 国立病院機構金沢医療センターなど）の地域医療研修を開始

○1月23日～

本院医師の調整により、基礎系教員が夜間巡回診療（宿直）を開始

○1月24日～

本院薬剤部も加わり、インフルエンザ治療開始

医療支援（5）石川県等の要請に基づく職員の派遣

活動期間：1/1(月)～

医師、薬剤師、看護師など
多職種のメディカルスタッフを派遣

【輪島市】
・市立輪島病院

【七尾市】
・公立能登総合病院

【金沢市】
・石川県災害対策本部
・石川県薬剤師会本部

【能登町】
・公立宇出津総合病院

【珠洲市】
・正院小学校(避難所)
・飯田小学校(避難所)
・飯田高校(避難所)
・珠洲市総合病院

被災直後の公立宇出津総合病院の様子 →
薬が床に散乱しているのがわかる

